

「令和4年度 防災都市創造に向けた社会実証研究事業」に関するアンケート
全町民参加型の防災について考える機会の創出事業

— 調査結果レポート —

2023年3月

東北大学災害科学国際研究所作成

目 次

I 調査の概要	2
II 調査結果のポイント	4
III 調査結果	6
1 回答者の属性	7
2 日頃の災害に対する備えについて	8
3 東日本大震災後の備えについて	10
4 東日本大震災後と現在の備えの比較	12
5 備蓄ゼリー配布の取り組みについて	14
6 備蓄ゼリー配布後の意識変化について	18
7 備蓄や災害時の食事の不安・課題について	22
IV 調査票（見本）	25

I 調査の概要

(1) 調査目的

東日本大震災から10年以上が経過し、当時の経験を伝える機会、防災について考える機会が減少している。オリジナル備蓄ゼリーのデザインコンテストや配布など町民参加型の防災について考える機会を創出することが、防災意識の醸成、防災意識の向上、防災に対する心構えや行動の変化に繋がることを測定するため、備蓄ゼリー配布後の防災意識の変化についての効果検証を目的として、本調査を実施した。

(2) 調査概要

- 調査対象 : 「令和4年度 防災都市創造に向けた社会実証研究事業」により、オリジナル防災備蓄ゼリーを配布した亘理町在住の2,000世帯（世帯向け調査）
- 調査方法 : 調査票を郵送配布・回収
- 調査期間 : 2022年12月7日～12月23日 ※集計にあたっては、2023年1月24日到着分までの票を含めた
- 有効回収数（率） : 988件（49.4%）

(3) 調査結果の見方

- 図表内の「n」は比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す
- 回答の構成比は百分率で表し、小数点第二位を四捨五入して算出しているため、従って、単一回答式の質問においても、合計が100%にならない場合がある
- 複数回答式の質問においては、各設問の「n」を基数として回答構成比を算出するため、合計が100%を超える場合がある

Ⅱ 調査結果のポイント

調査結果のポイント

1. 災害に対する備えについて

- 現在の災害に対する備えは、「食料・飲料などの備蓄をしている」がトップ。以下「転倒しそうな家具の近くに就寝しない」、「家具の固定を行っている」と続く。東日本大震災後（生活がある程度落ち着いた頃。以下同じ）についても概ね同様の傾向
- 食料・飲料水の備えは、東日本大震災後・現在ともに「3日分以上」備えている割合が5割以上
- 備えの個数の変化に着目した場合、東日本大震災後から現在にかけて増加した人（27.7%）が、減少した人（22.9%）に比べ多い
- 東日本大震災後と現在の備えの「意識」の変化については、「現在の方が高い」人が43.8%と最も高い。一方、「行動」の変化については、「現在の方がしっかりと備えを行えている」（38.8%）と「どちらともいえない」（39.1%）が僅差である。なお、意識・行動の変化どちらも、東日本大震災後と比べて「低くなっている（不足している）」と考える人が2割以上存在する

2. 備蓄ゼリー配布の取り組みについて

- 町の備蓄ゼリー配布の取り組みの認知度は49.9%と、全体の約半数。「笑顔になるゼリーデザインコンテスト」の認知度は37.1%
- 備蓄ゼリーの評価として、『災害時に水を必要としないで食べられること』、『5年間の長期保存が可能なこと』の高評価層（「よいと思う」＋「まあよいと思う」）が8割以上と、特に評価が高い。このほか、『「もういっこ」の使用』、『パッケージの形や大きさ』、『町独自のデザインによるパッケージ』のいずれも高評価層が7割以上となり、これらを踏まえた『総合的な満足度』は、高評価層が73.6%
- 備蓄ゼリーを食べてみての評価は、『災害時の食べやすさ』の高評価層が8割以上と高い。このほか、『食感』、『香り』、『味』のいずれも高評価層が7割台半ばとなっているが、『味』については低評価層（「よくないと思う」＋「あまりよくないと思う」）が約1割と比較的高い

3. 備蓄ゼリー配布後の意識変化について

- 備蓄ゼリー配布後、改めて災害について「考えた（話し合った）」人は19.2%、「これから考えようと（話し合おうと）思う」人は25.6%。これらを合算した、備蓄ゼリー配布が災害について考える（話し合う）きっかけとなった割合は44.8%
- 特に、備えの回答個数が東日本大震災後から現在で減少した人で、同割合が5割台半ばと高い。同様に、東日本大震災後と比べて備えの意識が低い人、備えが不足している人も、同割合が約5割と高く、備えの不足や意識低下を感じている人に対して、備蓄ゼリー配布が災害についてより考える（話し合う）きっかけとなったことがうかがえる
- 災害について考えたり話し合ったりしたこと（しようと思うこと）は、「携帯ラジオ・懐中電灯などの用意をすること」がトップ。以下「車のガソリンなどをこまめに給油すること」、「食料・飲料などを備蓄すること」と続く

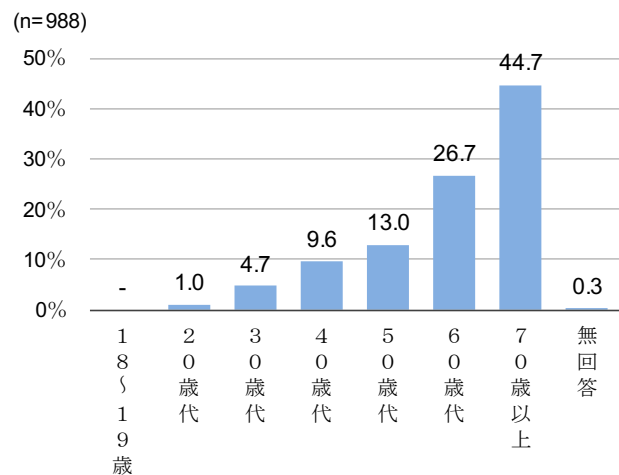
III 調査結果

1 回答者の属性

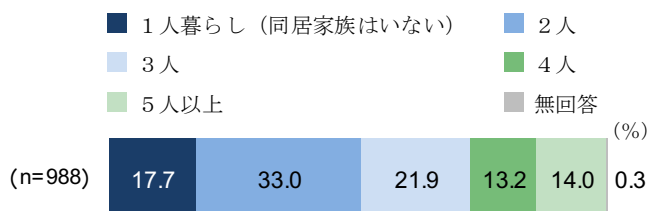
問1 性別



問2 年代

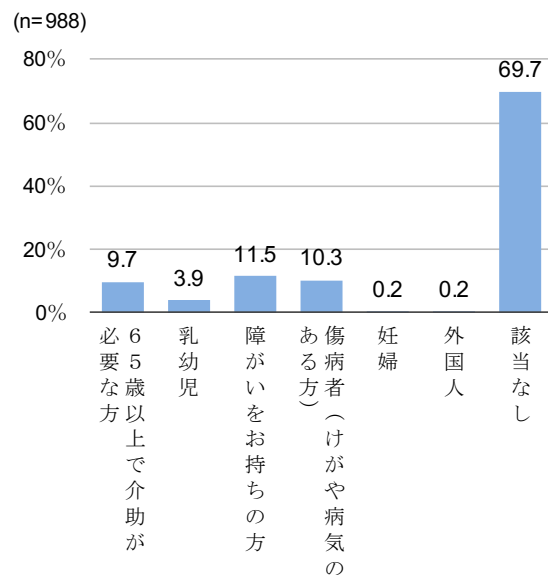


問3 同居家族人数（自身を含む）

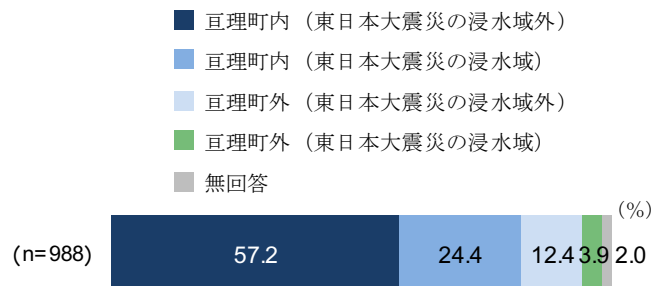


問4 家庭内の要配慮者

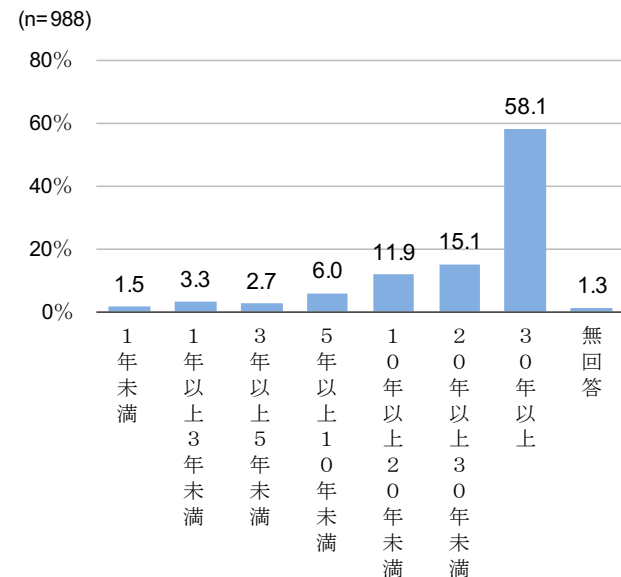
複数回答可



問6 東日本大震災発生当時のすまい



問5 亶理町での居住年数



問7 東日本大震災時の避難所生活経験



2 日頃の災害に対する備えについて

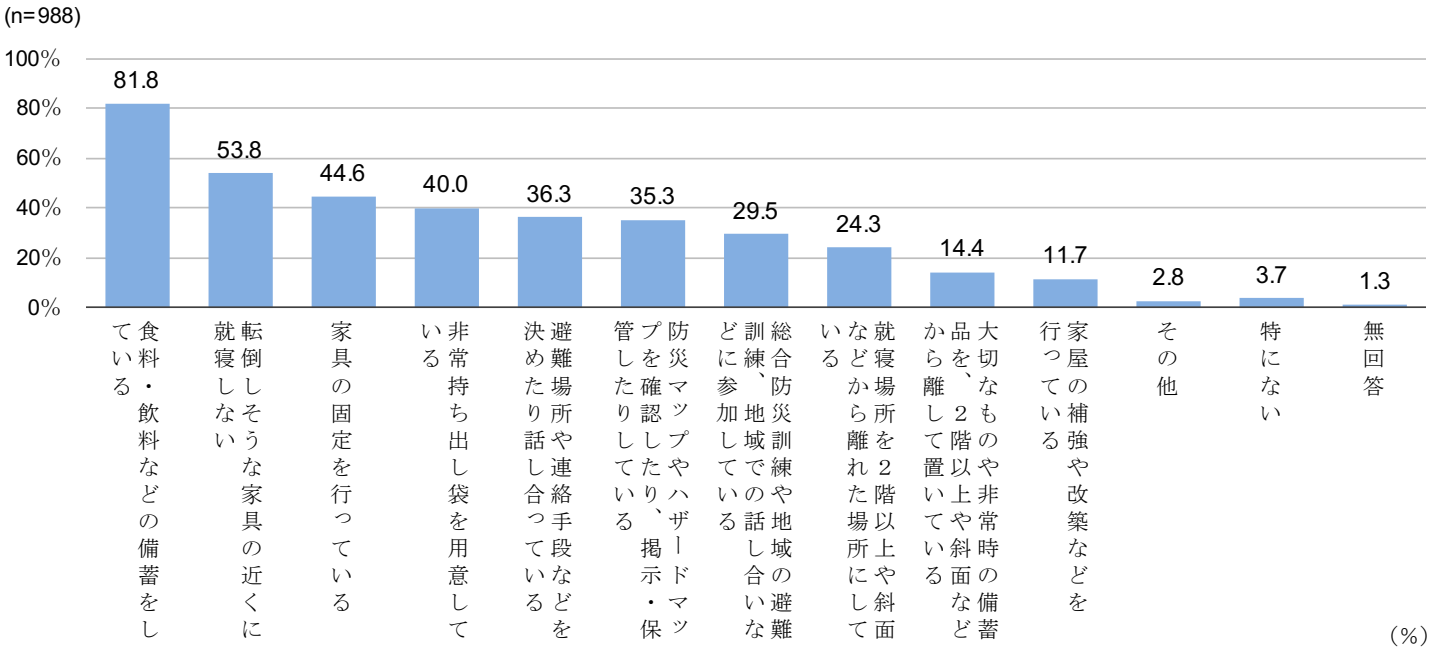
- ▶ 現在の災害に対する備えは、「食料・飲料などの備蓄をしている」が81.8%とトップ。以下「転倒しそうな家具の近くに就寝しない」(53.8%)、「家具の固定を行っている」(44.6%)と続いている
- ▶ 当時のすまい※が浸水域の人、避難所生活経験※がある人では特に、「非常持ち出し袋を用意している」「避難場所や連絡手段などを決めた話し合っている」が、浸水域外の人、経験がない人に比べ高い

※それぞれ「東日本大震災当時のすまい」「東日本大震災時の避難所生活経験」を省略記載したもの（以下同じ）

問 8 現在の災害に対する備え

複数回答可

単純集計



クロス集計

当時のすまい別	浸水域	(n=280)	80.4	53.9	42.5	50.0	45.7	39.6	35.0	24.6	18.6	12.9	3.9	4.3	-
	浸水域外	(n=688)	83.9	54.9	46.7	36.5	33.3	34.2	27.9	24.7	12.9	11.3	2.5	3.6	-
避難所生活経験の有無別	経験あり	(n=266)	82.0	55.6	45.5	53.0	48.9	40.6	36.8	25.6	21.1	15.8	4.5	2.3	-
	経験なし	(n=690)	83.2	54.3	45.2	35.7	32.8	34.5	27.7	24.1	11.9	10.1	2.2	4.3	-

2 日頃の災害に対する備えについて

- ▶ 日頃から食料・飲料水ともに「3日分以上」の備蓄をしている人が全体の5割前後と高い
- ▶ 当時のすまい別にみても、備蓄日数に特徴的な差はみられない
- ▶ 避難所生活経験の有無別にみると、経験がない人の「3日分以上」が、食料・飲料水ともに経験がある人に比べ高い

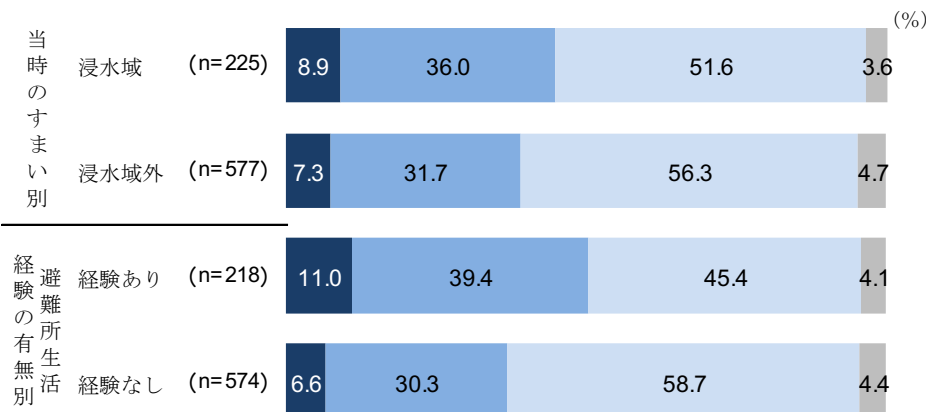
問9 現在の食料の備え

* 問8で食料・飲料などの備蓄をしていると回答した方

単純集計



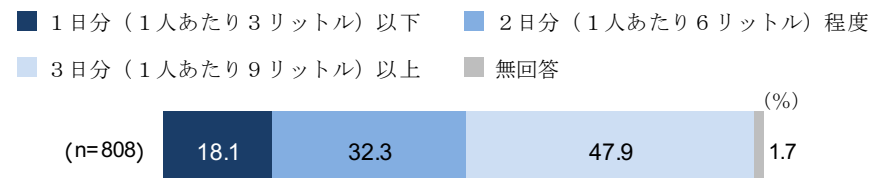
クロス集計



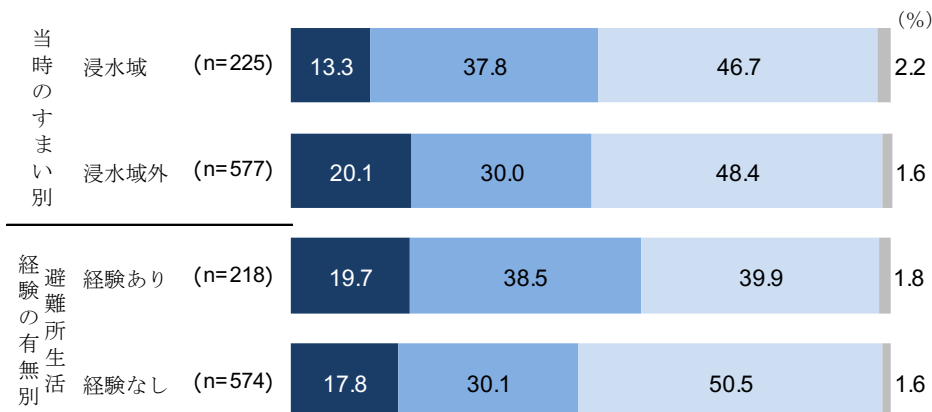
問10 現在の飲料水の備え

* 問8で食料・飲料などの備蓄をしていると回答した方

単純集計



クロス集計



3 東日本大震災後の備えについて

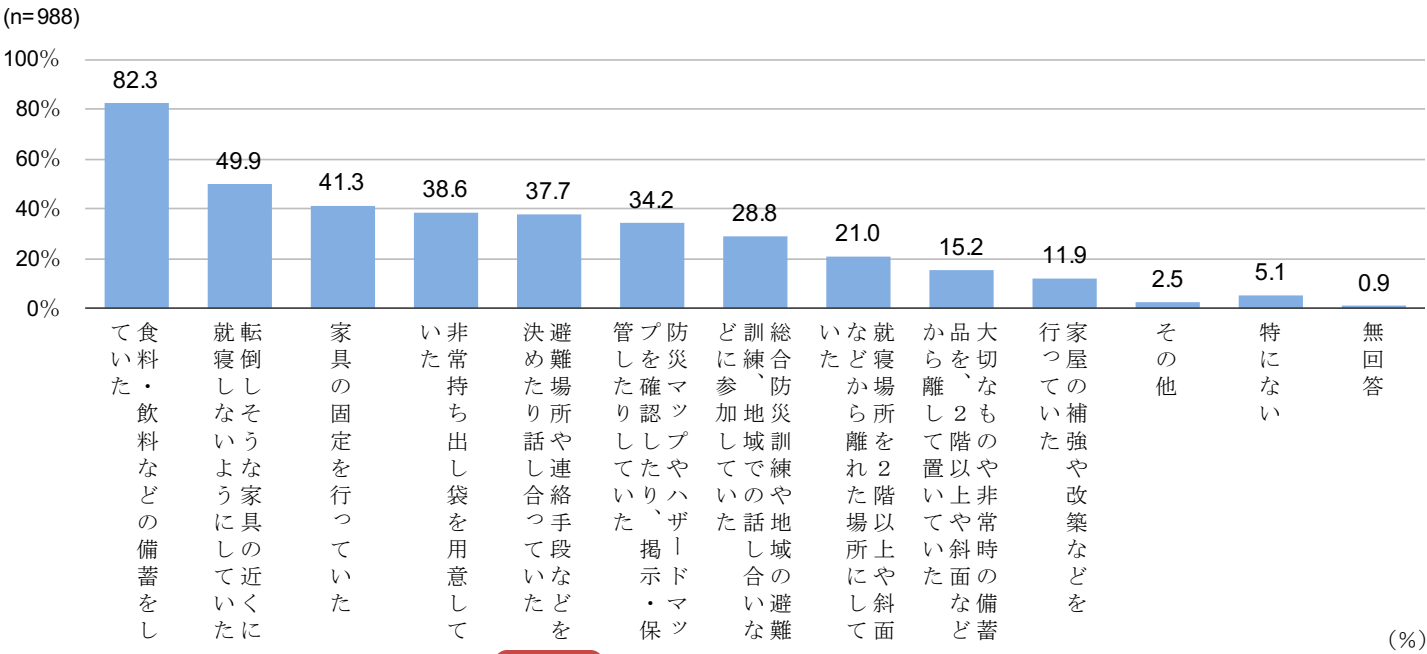
- ▶ 東日本大震災後※の災害に対する備えは、「食料・飲料などの備蓄をしていた」が82.3%とトップ。以下「転倒しそうな家具の近くに就寝しないようにしていた」（49.9%）、「家具の固定を行っていた」（41.3%）と続いている
- ▶ 当時のすまいが浸水域の人、避難所生活経験がある人では特に、「避難場所や連絡手段などを決めたり話し合っていた」が、浸水域外の人、経験がない人に比べ高い

※「東日本大震災後（生活がある程度落ち着いた頃）」を省略記載したもの（以下同じ）

問11 東日本大震災後の災害に対する備え

複数回答可

単純集計



クロス集計

当時のすまい別	浸水域	(n=280)	80.0	48.9	36.8	42.9	48.9	39.3	33.9	21.4	18.9	14.6	3.9	5.0	1.1
	浸水域外	(n=688)	83.3	51.5	44.2	37.5	33.9	32.6	27.3	21.2	14.0	10.9	2.0	5.1	0.6
避難所生活経験の有無別	経験あり	(n=266)	80.5	48.9	40.6	45.9	51.1	41.4	35.0	20.7	21.1	17.7	3.8	3.4	0.8
	経験なし	(n=690)	83.0	51.4	42.3	36.4	33.6	32.5	27.2	21.6	13.0	9.7	2.0	5.7	0.6

3 東日本大震災後の備えについて

- ▶ 東日本大震災後、食料・飲料水ともに「3日分以上」の備蓄をしていた人が全体の5割以上と高い
- ▶ 当時のすまいが浸水域外の人、避難所生活経験がない人では、食料の「3日分以上」が、浸水域の人、経験がある人に比べ高い
- ▶ 一方、飲料水では、当時のすまい別、避難所生活経験の有無別でみても、備蓄日数に特徴的な差はみられない

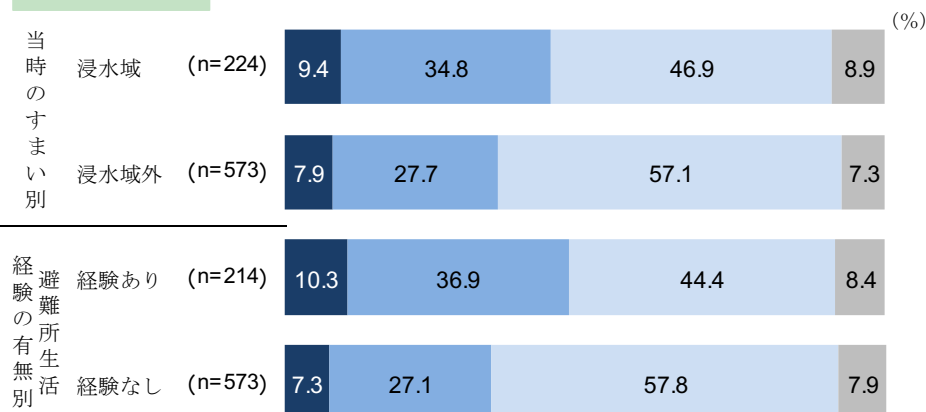
問12 東日本大震災後の食料の備え

* 問11で食料・飲料などの備蓄をしていたと回答した方

単純集計



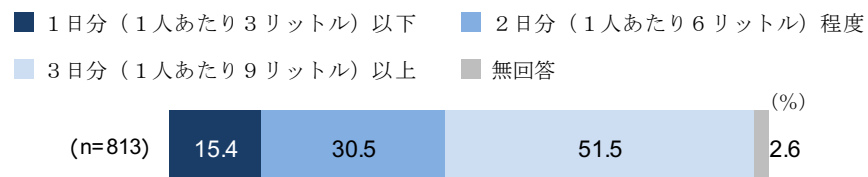
クロス集計



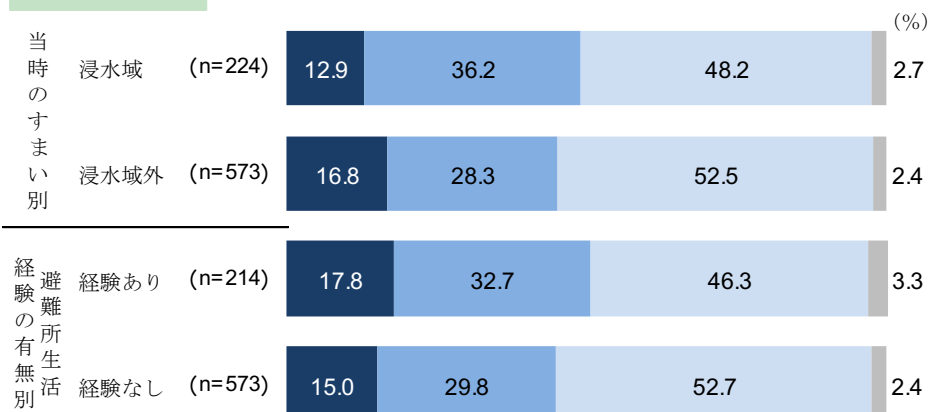
問13 東日本大震災後の飲料水の備え

* 問11で食料・飲料などの備蓄をしていたと回答した方

単純集計



クロス集計



4 東日本大震災後と現在の備えの比較

- ▶ 前述した現在（問8）と東日本大震災後（問11）の災害に対する備えを単純な回答割合で比較した場合、特徴的な差は見られない
- ▶ 東日本大震災後（問11）から現在（問8）の、備えの回答個数の増減をみると、「増加」が27.7%、「減少」が22.9%となり、備えの個数が東日本大震災後から現在にかけて増加した人が、減少した人に比べやや多い

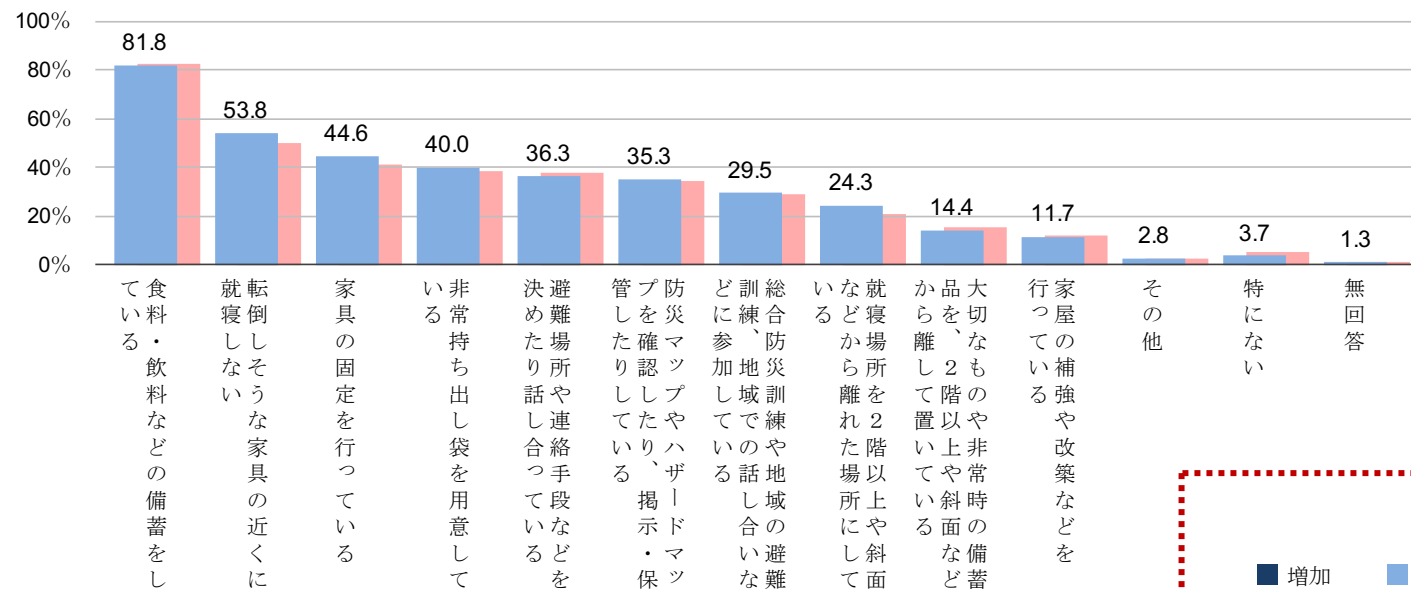
現在（問8）と東日本大震災後（問11）の備えの比較

複数回答可

単純集計（問8と問11の比較）

※前面（ブルー）のグラフ及び数値が問8の結果、背面（ピンク）のグラフが問11の結果

(n=988)



東日本大震災後（問11）から現在（問8）の、備えの回答個数（選択肢数）の増減をみると…



4 東日本大震災後と現在の備えの比較

- ▶ 東日本大震災後と現在の備えの「意識」の変化は、「現在の方が備えの意識が高い」が43.8%と最も高い。一方、備えの「行動」の変化は、「現在の方がしっかりと備えを行っている」(38.8%)と「どちらともいえない」(39.1%)が僅差となっている
- ▶ なお、意識の変化・行動の変化どちらも、「意識が低くなっている(備えが不足している)」が2割以上の回答があり、当時のすまいが浸水域外の人、避難所生活経験がない人で、やや高い傾向がある

問14 (1) 東日本大震災後と現在の備えの「意識」の変化

単純集計

- 現在の方が備えの意識が高い
- 以前と比べて備えの意識が低くなっている
- どちらともいえない
- 無回答



クロス集計



問14 (2) 東日本大震災後と現在の備えの「行動」の変化

単純集計

- 現在の方がしっかりと備えを行っている
- 以前と比べて備えが不足している
- どちらともいえない
- 無回答



クロス集計

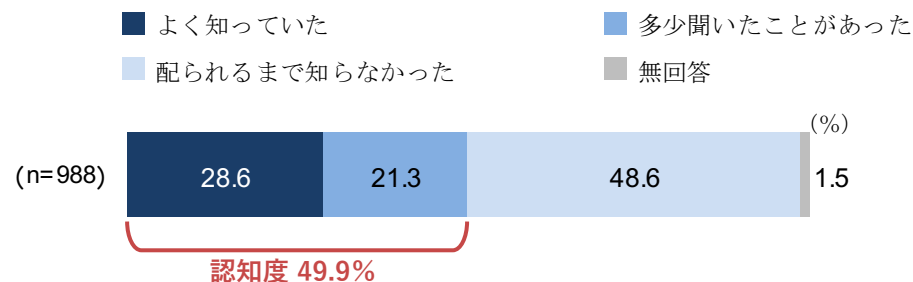


5 備蓄ゼリー配布の取り組みについて

- ▶ 町の備蓄ゼリー配布の取り組みの認知度は49.9%と、全体の約半数となっている
- ▶ 「笑顔になるゼリーデザインコンテスト」については、「知らなかった」(61.1%)が6割以上となり、認知度は37.1%となっている

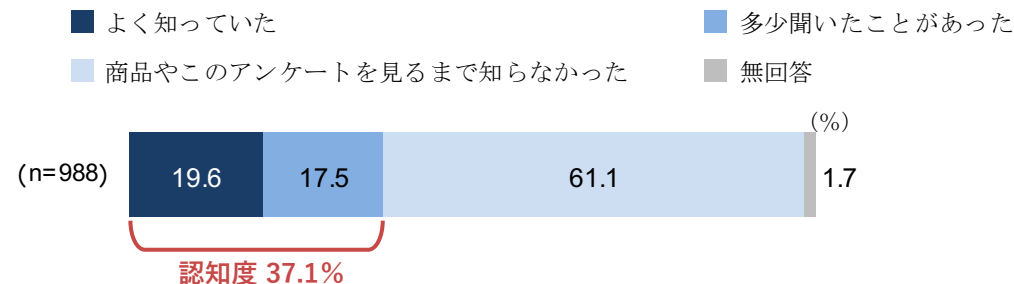
問15 備蓄ゼリーを各世帯に配布する取り組みを知っていたか

単純集計



問16 「笑顔になるゼリーデザインコンテスト」を知っていたか

単純集計

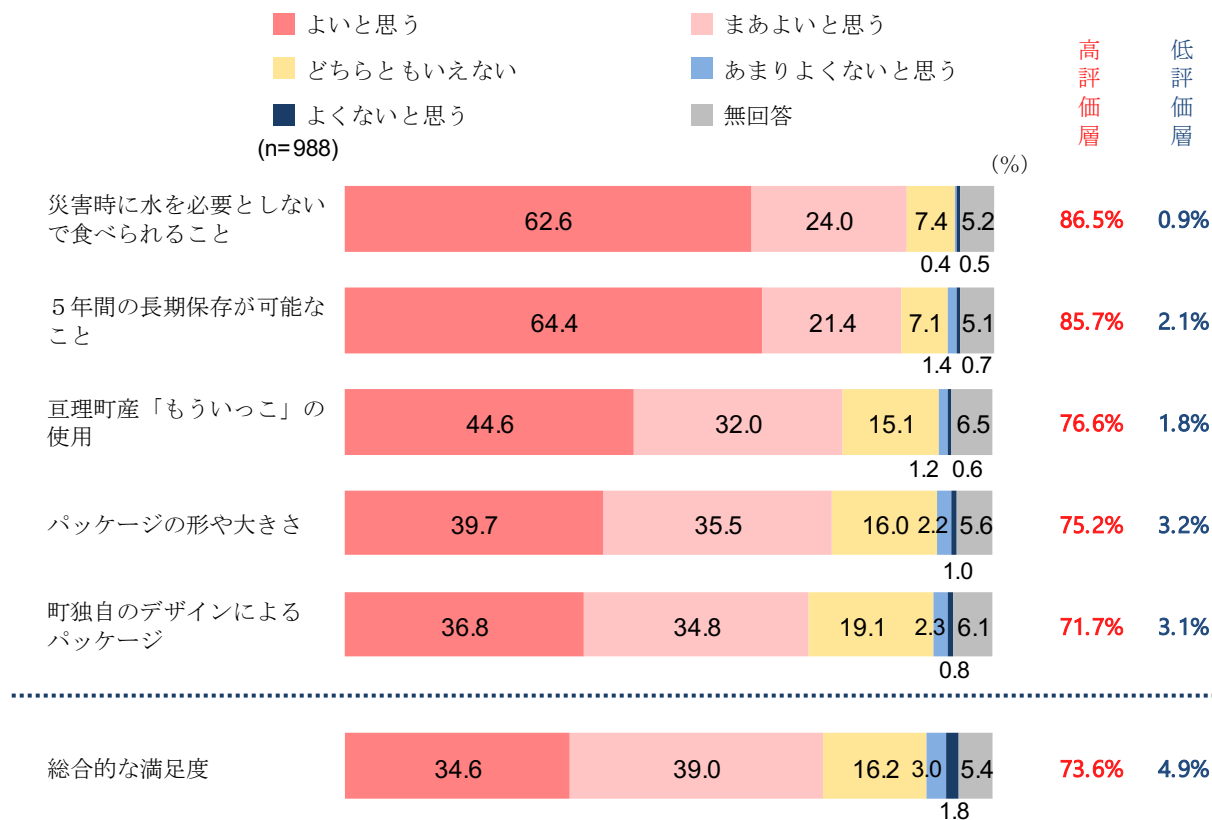


5 備蓄ゼリー配布の取り組みについて

- ▶ 備蓄ゼリーについて感じたことについて、『災害時に水を必要としないで食べられること』、『5年間の長期保存が可能なこと』の高評価層が8割以上かつ、「よいと思う」が6割以上と、評価が高くなっている。
- ▶ 以下、高評価層順に『亘理町産「もういっこ」の使用』、『パッケージの形や大きさ』、『町独自のデザインによるパッケージ』と続くが、いずれも高評価層が7割以上、一方で低評価層は数%にとどまる
- ▶ これらを踏まえた『総合的な満足度』は、高評価層が73.6%となっている

問17 備蓄ゼリーについて感じたこと

単純集計



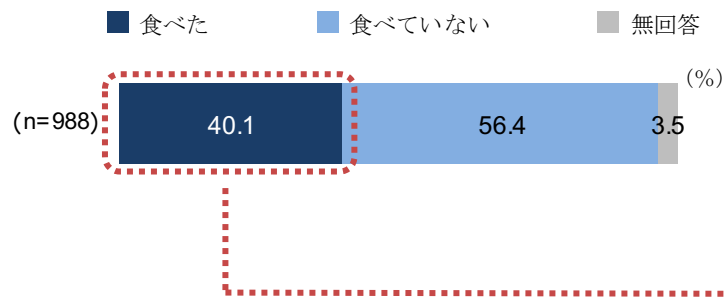
※高評価層＝「よいと思う」＋「まあよいと思う」 低評価層＝「よくないと思う」＋「あまりよくないと思う」
 なお、四捨五入の関係で、二つの選択肢の合算割合が、個別の選択肢割合の単純な足し上げ値と一致しない場合がある（以下同じ）

5 備蓄ゼリー配布の取り組みについて

- ▶ 備蓄ゼリーを食べてみた人は、全体の約4割となっている
- ▶ 食べてみた人に対して食後の評価を尋ねたところ、『災害時の食べやすさ』の高評価層が8割以上と高くなっている
- ▶ 以下、『食感』、『香り』、『味』が、いずれも高評価層が7割台半ばで続いているが、『味』については低評価層が約1割と他の項目に比べ比較的高くなっている

問18 備蓄ゼリーを食べてみたか

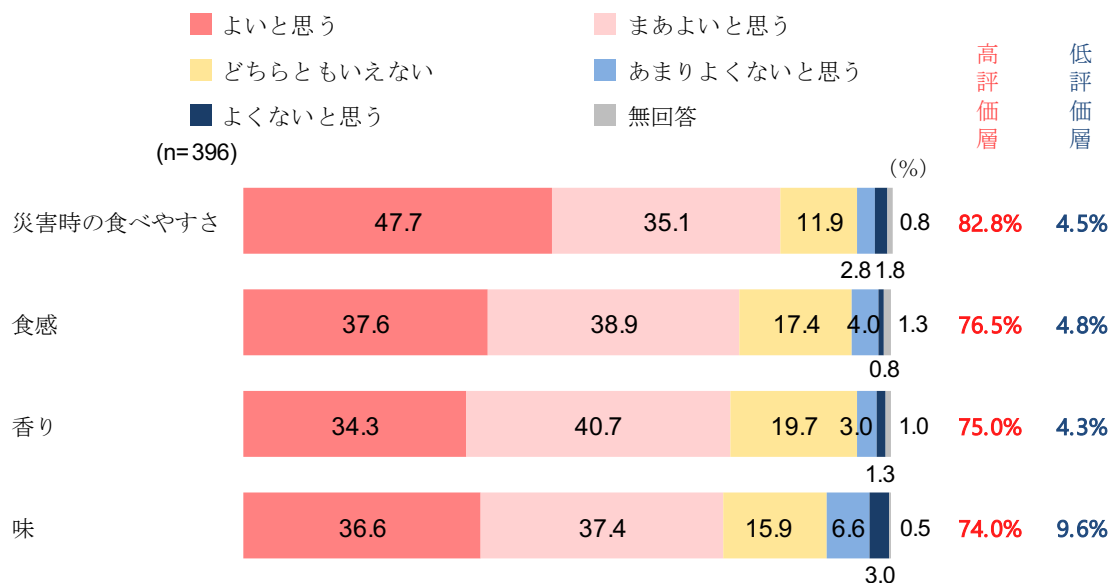
単純集計



問19 備蓄ゼリーを食べてみての評価

単純集計

* 問18で備蓄ゼリーを食べたと回答した方



※高評価層 = 「よいと思う」 + 「まあよいと思う」

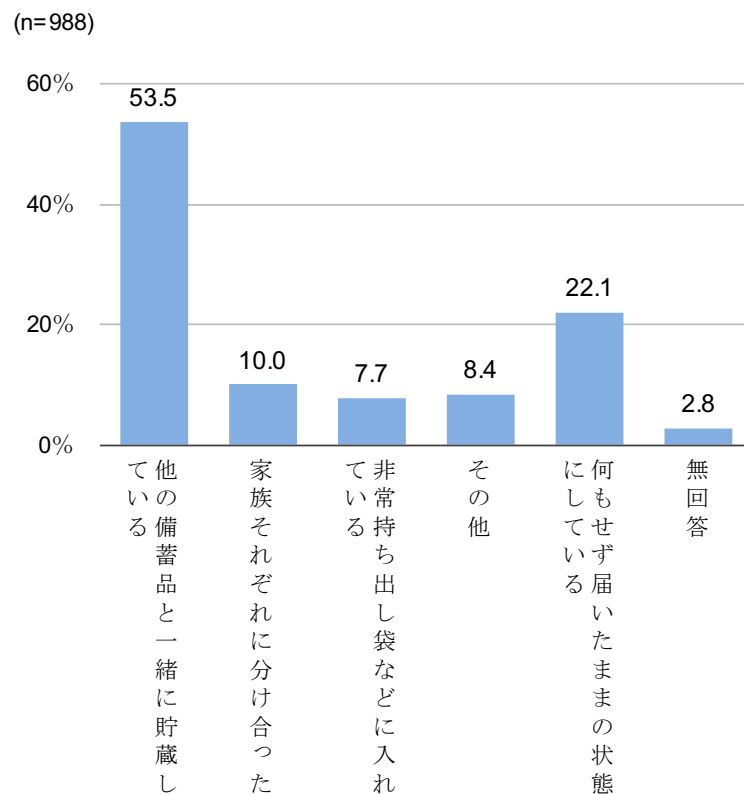
低評価層 = 「よくないと思う」 + 「あまりよくないと思う」

5 備蓄ゼリー配布の取り組みについて

- ▶ 備蓄ゼリーが届いた後の対応としては、「他の備蓄品と一緒に貯蔵している」が53.5%とトップ。このほか、「家族それぞれに分け合った」「非常持ち出し袋などに入れている」が1割程度
- ▶ 一方、「何もせず届いたままの状態にしている」人も2割以上存在する

問20 備蓄ゼリーが届いた後、どのようにしているか

単純集計

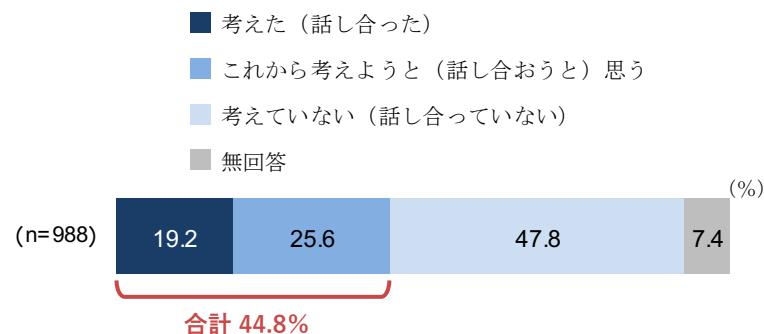


6 備蓄ゼリー配布後の意識変化について

- ▶ 備蓄ゼリー配布後、改めて災害について「考えた（話し合った）」人は19.2%となり、「これから考えようと（話し合おうと）思う」人（25.6%）を合わせた、備蓄ゼリー配布が災害について考える（話し合う）きっかけとなった割合は44.8%となっている
- ▶ 東日本大震災後から現在の、備えの回答個数の増減（P.12参照）別にみると、「増加」した人及び「増減なし」の人は、全体（単純集計）と概ね同様の傾向となっている
- ▶ 一方、「減少」した人は、「考えた（話し合った）」と「これから考えようと（話し合おうと）思う」の合計が5割台半ばと高く、備蓄ゼリー配布が災害についてより考える（話し合う）きっかけとなったことがうかがえる

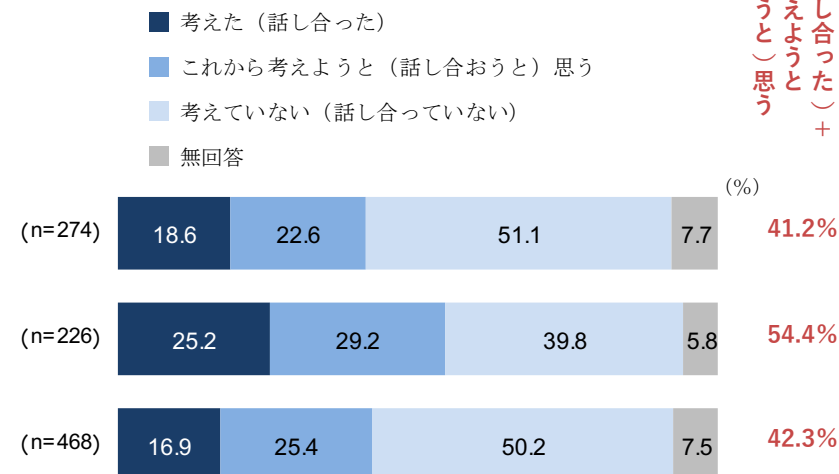
問21 備蓄ゼリーの配布後、災害について考えたり話し合ったりしたか

単純集計



クロス集計

東日本大震災の被災者から
増加
減少
増減なし



考えた（話し合った）
これから考えようと
（話し合おうと）思う
+

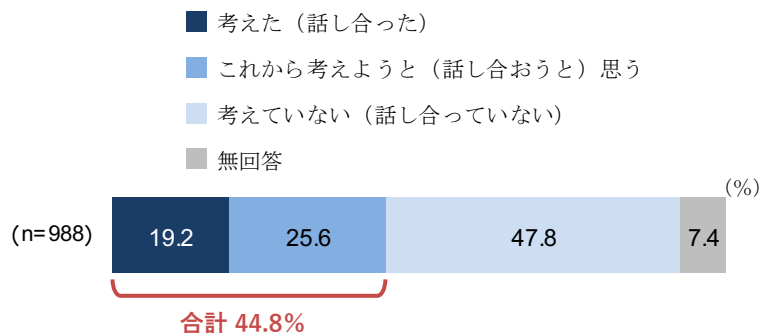
6 備蓄ゼリー配布後の意識変化について

- ▶ 東日本大震災後と現在の備えの意識・行動の変化（P.13参照）別にみると、現在の方が備えの意識が高い（行えている）人は、「考えた（話し合った）」と「これから考えようと（話し合おうと）思う」の合計が約5割となっている
- ▶ 一方、以前と比べて備えの意識が低い（不足している）人でも、回答比率に違いはあるものの、前述した合計は約5割となっており、備えの意識・行動の高低にかかわらず、備蓄ゼリー配布が災害について考える（話し合う）きっかけとなったことがうかがえる
- ▶ 他方、備えの意識・行動変化についてどちらともいえないと回答した人は、前述した合計が約3～4割にとどまっている

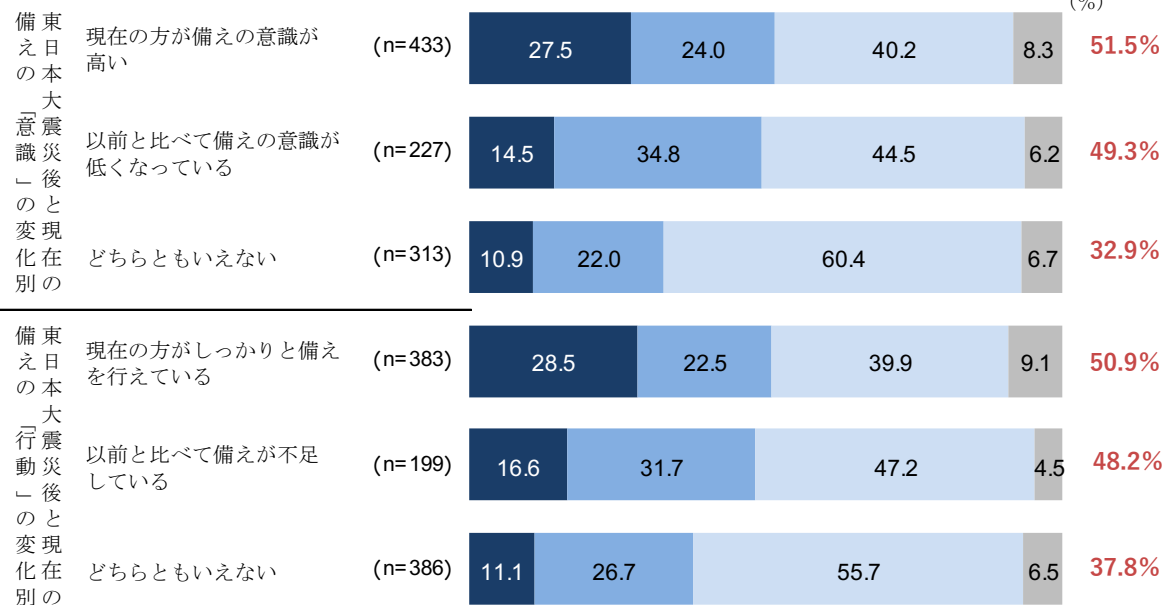
問21 備蓄ゼリーの配布後、災害について考えたり話し合ったりしたか

単純集計

※前頁のグラフ再掲



クロス集計



考えた（話し合った）
これから考えようと（話し合おうと）思う
（話し合おうと）思う
+

6 備蓄ゼリー配布後の意識変化について

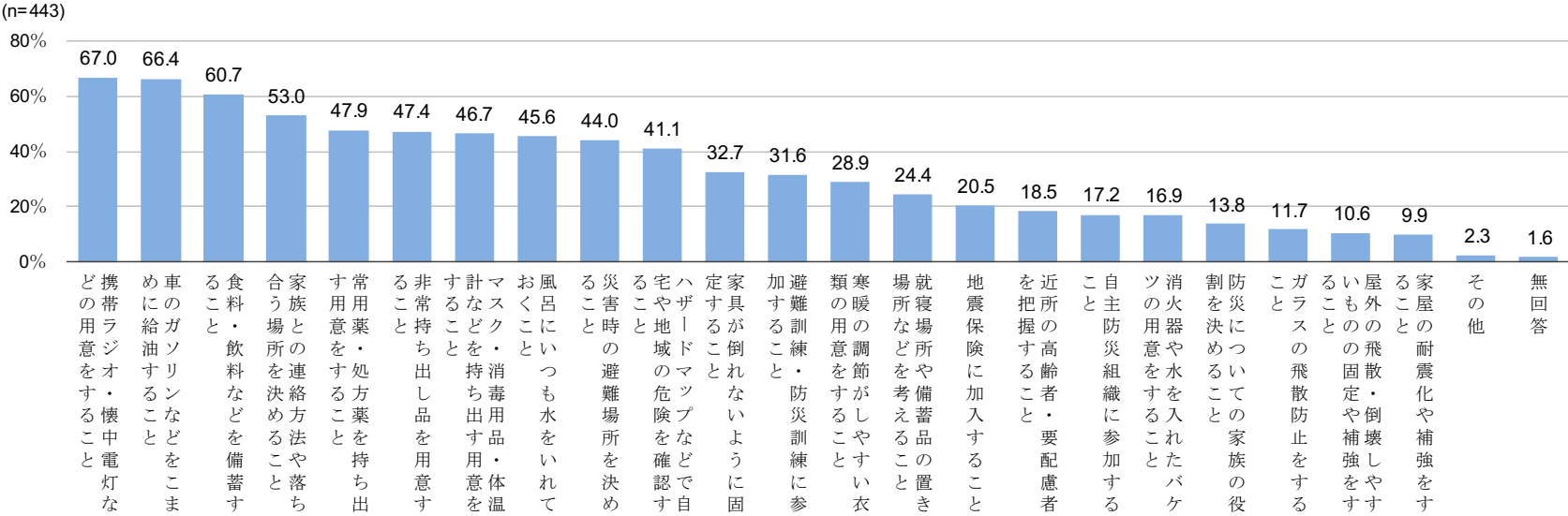
- ▶ 災害について考えたり話し合ったりしたこと（しようと思うこと）は、「携帯ラジオ・懐中電灯などの用意をすること」が67.0%とトップ。以下「車のガソリンなどをこまめに給油すること」（66.4%）、「食料・飲料などを備蓄すること」（60.7%）と続いている
- ▶ 災害について実際に考えた（話し合った）人は、これから考えようと（話し合おうと）思う人に比べ、「携帯ラジオ・懐中電灯などの用意をすること」、「風呂にいつも水をいれておくこと」がやや高い

問22 災害について考えたり話し合ったりしたこと（しようと思うこと）

複数回答可

単純集計

* 問21で災害について考えたり話し合った（これからしようと思う）と回答した方



クロス集計

考え（話し合い）の状況別	災害について考えた（話し合った）	(n=190)	72.1	69.5	64.2	50.0	46.3	43.7	44.2	52.1	42.6	44.7	33.2	33.7	27.9	26.8	24.2	20.0	18.4	20.0	15.3	16.3	13.2	11.1	2.1	2.6
	災害についてこれから考えようと（話し合おうと）思う	(n=253)	63.2	64.0	58.1	55.3	49.0	50.2	48.6	40.7	45.1	38.3	32.4	30.0	29.6	22.5	17.8	17.4	16.2	14.6	12.6	8.3	8.7	9.1	2.4	0.8

6 備蓄ゼリー配布後の意識変化について

- ▶ 当時のすまい別、避難所生活経験の有無別にみると、当時のすまいが浸水域の人、避難所生活経験がある人では特に「災害時の避難場所を決めること」が、浸水域外の人、経験がない人に比べ高い
- ▶ このほか、避難所生活経験がある人では、「家族との連絡方法や落ち合う場所を決めること」、「マスク・消毒用品・体温計などを持ち出す用意をすること」、「家具が倒れないように固定すること」等も、経験がない人に比べ高くなっている

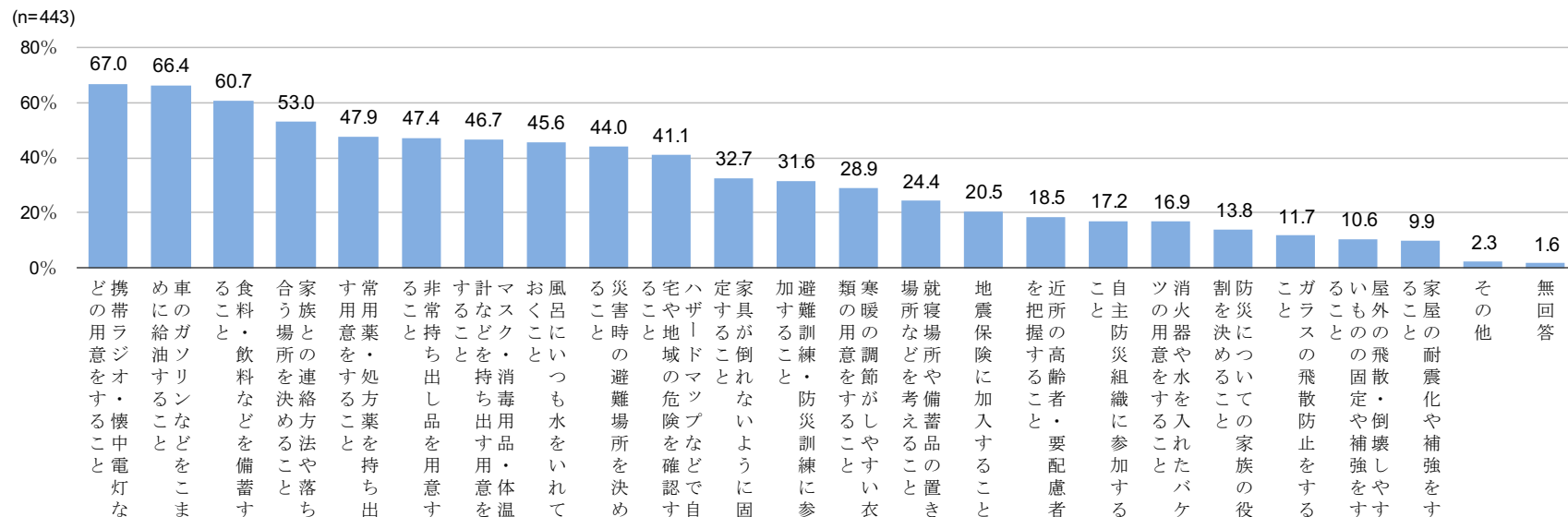
問22 災害について考えたり話し合ったりしたこと（しようと思うこと）

複数回答可

単純集計

* 問21で災害について考えたり話し合った（これからしようと思う）と回答した方

※前頁のグラフ再掲



クロス集計

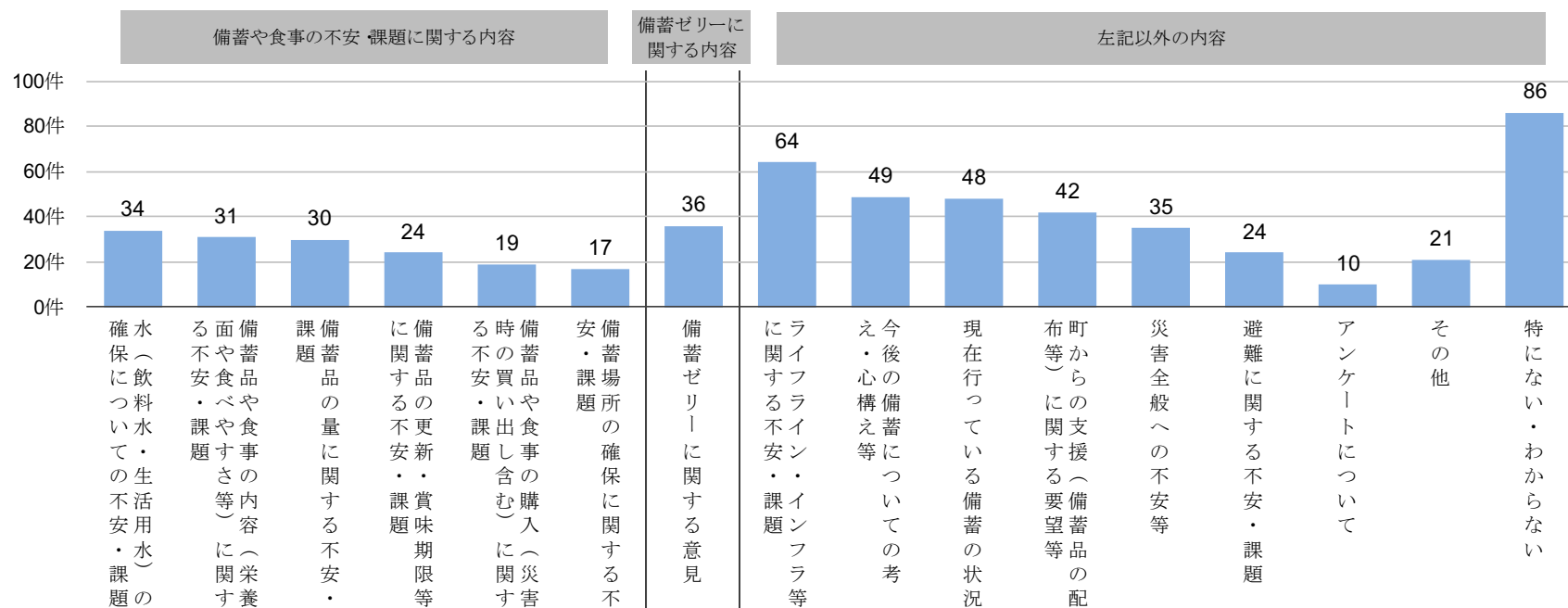
当時のすまい別	浸水域	(n=115)	69.6	67.8	60.0	58.3	47.0	49.6	48.7	40.0	51.3	40.9	33.9	33.9	29.6	26.1	25.2	16.5	18.3	16.5	17.4	10.4	9.6	11.3	1.7	2.6
	浸水域外	(n=317)	66.2	66.6	60.6	51.1	47.6	46.7	45.1	47.6	41.0	40.4	32.2	30.3	28.4	23.7	18.0	18.3	15.8	16.7	12.3	12.0	10.4	9.1	1.9	1.3
避難所生活経験の有無別	経験あり	(n=113)	70.8	64.6	57.5	63.7	53.1	53.1	54.0	39.8	54.9	43.4	41.6	34.5	33.6	25.7	25.7	18.6	17.7	15.9	17.7	9.7	10.6	13.3	3.5	2.7
	経験なし	(n=316)	65.5	67.1	61.7	49.4	46.5	44.9	44.0	47.8	39.2	39.2	28.8	30.1	27.2	23.7	17.4	17.4	15.8	16.8	11.7	12.0	9.8	8.2	1.3	1.3

7 備蓄や災害時の食事の不安・課題について

- ▶ 備蓄や災害時の食事の不安・課題を自由記述形式でたずねたところ、「水の確保」「備蓄品や食事の内容」「備蓄品の量」「備蓄品や食事の購入」「備蓄場所の確保」への不安・課題に関する記述が多くみられた
- ▶ 上記以外では、「備蓄ゼリーに関する意見」や、「ライフライン・インフラ等に関する不安・課題」「今後の備蓄についての考え・心構え等」「現在行っている備蓄の状況」などに関する記述も多くみられた

問23 備蓄や災害時の食事の不安・課題

回答者数：464人（複数回答あり）



7 備蓄や災害時の食事の不安・課題について

問23 備蓄や災害時の食事の不安・課題に関する主な意見（抜粋）

■水（飲料水・生活用水）の確保についての不安・課題

- ・水道が止まると料理や飲料に困る。井戸水のある場所などを周知願いたい。
- ・農家ゆえ、ある程度の食材は用意できると思うけど、水の確保に不安を感じる。
- ・飲料水はもちろんだが、トイレの水等生活用水を確保できる箇所があるのか不安である（地区内に）。
- ・水の心配が一番。10年前、風呂、トイレで大変だったので。
- ・東日本大震災では「水」を入手するのにとても苦労しました。次に何かあった時水が手に入るかどうか不安です。

■備蓄品や食事の内容（栄養面や食べやすさ等）に関する不安・課題

- ・災害の時、すぐに食べられる物が多くあるととても良いと思う。
- ・レトルト食品、アルファ米、水だけ加えて食べられる物・水。※80才近いので食事が喉につまってしまうのが心配。
- ・子どもがアレルギー（卵）持ちのため、避難所に行った際の食事を安心して食べることができるか不安である。
- ・食べ物を選ばなければ口にする事ができると思うが、栄養面で偏ってしまう。東日本大震災の時、鉄分不足で貧血を起こし倒れた事があった。
- ・乳幼児が2人いるため、食事をきちんと摂らせたり、子どもも食べられるものを準備したいが、長期保存できるものが少ない為心配です。

■備蓄品の量に関する不安・課題

- ・家族が多いので備蓄が大変です。
- ・東日本大震災と同じくらいの災害が起こった際、備蓄が足りるのか不安がある。
- ・災害が起きてから復旧するまでどれ位の日数がかかるかわからないので、どの位の水や食料を備蓄すれば良いのか、具体的にわかりづらい。
- ・備蓄が足りないなとは思っている。しかし、大震災当時に津波で家が流されてしまって持ち出すことさえできなかったの備蓄しようという気持ちにはあまりならない。ムダになったという考えがどこかにあるのかもしれない。
- ・3日分の食料の備蓄が必要と聞きますが、その量は準備できていないのが不安です。

■備蓄品の更新・賞味期限等に関する不安・課題

- ・食品のローリングストックがうまくできていない。物価高で余分な食品はなかなか買えない。
- ・備蓄品（食料）について賞味期限があって、交換する時期がまちまちで、忘れがちである。
- ・備蓄している食料を点検してみると、賞味期限が切れていて、捨ててしまうことがある。
- ・赤ちゃんがいるとミルクやオムツの準備をしようと思うがすぐにサイズが合わなくなったり使わなかったりして使用期限がきれてしまわないか不安。

■備蓄品や食事の購入（災害時の買い出し含む）に関する不安・課題

- ・災害時は、スーパー、コンビニ、ドラッグストアが大混雑。食料品の配布、配給などがあれば良いかと。
- ・1人暮らしなので買い出しが出来ない（足が悪いから）。
- ・家族4人分の食料を備蓄していますが、2～3日以上になると、その分、買い足さなければならなくなるので、不安になります。スーパーに物がなければ手に入らないと本当に困ります。
- ・水の消費期限がきいているのもそのままの状態があった。重いので年寄りには、購入の不安があり大変だった。

■備蓄場所の確保に関する不安・課題

- ・ひとつの基準として、備蓄3日分とは知っているものの、置き場所に困っている。
- ・震災後時間が経過するほど備蓄品の種類と保管量が増加し、二階のスペースが圧迫されてきた。
- ・家族5人分の食料・飲料水の数日分を確保し、保管する場所（スペース）をどうすべきか考えるところである。
- ・備蓄品は大切だとは思っているが、保管場所の問題もあり十分な量を常時準備することは難しいと感じる。

7 備蓄や災害時の食事の不安・課題について

問23 備蓄や災害時の食事の不安・課題以外の主な意見（抜粋）

■備蓄ゼリーに関する意見

- ・取組に理解出来た。定期的に配布、広報をしてほしい。
- ・今回のゼリー配布で、不安時の甘いものの必要性を感じました。ゼリーありがとうございました。
- ・障がいの程度によっては、ゼリーを1人で開封することが困難であると感じた。
- ・子どもと食べてみたのですが味はおいしいと食べていたのですが、小さい子どもには、食べにくい形（押してもうまく出なかったようです）でした。

■ライフライン・インフラ等に関する不安・課題

- ・オール電化なので災害時停電になったら困る。
- ・電気・水道・ガス等の停止時の対応が不安である。
- ・東日本大震災の時は石油ストーブや外で炭等で対応（たまたま）出来たが今は電気中心にしたので停電になった時には不安がある。

■今後の備蓄についての考え・心構え等

- ・10数年が経過し少し気が抜けていた面もあった。改めて家族皆で話をし、その場で困らない状況を作る努力をしていきたいと思います。
- ・前のような災害が起きた場合に備え、水の他にインスタント食品などに平日頃食べなれていくように心がけたい。
- ・冷凍食品が多少あるので、カセットボンベの買い置きをしておきたいと思った。

■現在行っている備蓄の状況

- ・缶づめなど多めに用意しています。冷凍おにぎりも準備しています。
- ・夏は熱中症対策、冬は温い物が食べられるように考えています。
- ・主食などは普段から多めに保管しております。

■町からの支援（備蓄品の配布等）に関する要望等

- ・災害時、飲食物を早急に配っていただくなど迅速な対応をしていただけると有難いです。
- ・長期にわたる場合、行政の支援がいつまでどの程度継続されるのかが不安である。
- ・備蓄といっても準備するのに限度があり避難所で気軽に食品をわけて頂ければ良いと思う。

■災害全般への不安等

- ・1人暮らしなので災害があったら不安がいっぱいです。
- ・近所の人にどこまで頼ってよいかわからない。頼れる人は近くにいない。
- ・災害に対しての意識が薄くなってしまった。

■避難に関する不安・課題

- ・避難所まで遠い。夜間等足がない。高齢者なので1人では無理。
- ・家にいる時、災害に遭うとは限らないので外で遭った時の行動はどうしたものか。
- ・食料・飲料に関して、備蓄をする事はできても災害時にそれを運べるか、持っていけるかが不安。他にも持って行く物はあるし…現実的に考えると不安しかない。

■アンケートについて

- ・改めて、このアンケートにて、考える機会を持つ事ができました。
- ・このアンケートのおかげで、災害時の備蓄品の点検をして、不足品がある事に気づいて、良かったです。
- ・亘理町の防災に対する取り組みがしっかりしていると感じます。備蓄ゼリーの取り組み等、又このアンケート等防災に付いての意識が益々高まって大変良いと思います。

IV 調査票（見本）

【問8で「6 食料・飲料などの備蓄をしている」と答えた方のみ】

問9 食料は、あなたや同居のご家族全員で何日分程度の備えがありますか。（○は1つ）

- 1 1日分（1人あたり3食）以下 3 3日分（1人あたり9食）以上
2 2日分（1人あたり6食）程度

問 10 飲料水は、あなたや同居のご家族全員で何日分程度の備えがありますか。(○は1つ)

- 1 1日分（1人あたり3リットル）以下 3 3日分（1人あたり9リットル）以上
2 2日分（1人あたり6リットル）程度

3. 東日本大震災後の備えについておたずねします

【全ての方におうかがいします】

問 11 お宅では、東日本大震災後（生活がある程度落ち着いたころ）、災害に対してどのような備えを行っていましたか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 避難場所や連絡手段などを決めたり話し合っていた
- 2 家具の固定を行っていた
- 3 転倒しそうな家具の近くに就寝しないようにしていた
- 4 家屋の補強や改築などを行っていた
- 5 非常持ち出し袋を用意していた
- 6 食料・飲料などの備蓄をしていた
- 7 就寝場所を2階以上や斜面などから離れた場所にしていた
- 8 大切なものや非常時の備蓄品を、2階以上や斜面などから離して置いていた
- 9 防災マップやハザードマップを確認したり、掲示・保管したりしていた
- 10 総合防災訓練や地域の避難訓練、地域での話し合いなどに参加していた
- 11 その他（ ）
- 12 特になし

【問11で「6 食料・飲料などの備蓄をしていた」と答えた方のみ】

問 12 東日本大震災後（生活がある程度落ち着いたころ）、食料は、あなたや同居のご家族全員で何日分程度の備えがありましたか。（〇は1つ）

- 1 1日分（1人あたり3食）以下 3 3日分（1人あたり9食）以上
2 2日分（1人あたり6食）程度

問 13 東日本大震災後（生活がある程度落ち着いたころ）、飲料水は、あなたや同居のご家族全員で何日分程度の備えがありましたか。（○は1つ）

- 1 1日分（1人あたり3リットル）以下 3 3日分（1人あたり9リットル）以上
2 2日分（1人あたり6リットル）程度

【全ての方におうかがいします】

問 14 東日本大震災後（生活がある程度落ち着いたころ）に行っていた備えと現在行っている備えを比べて、意識や行動に変化はありますか。以下についてそれぞれお答えください。

(1) 意識の変化 (○は1つ)

- 1 現在の方が備えの意識が高い
- 2 以前と比べて備えの意識が低くなっている
- 3 どちらともいえない

(2) 行動の変化 (○は1つ)

- 1 現在の方がしっかりと備えを行えている
- 2 以前と比べて備えが不足している
- 3 どちらともいえない

4. 今回、亘理町内の各世帯にお届けしている「備蓄ゼリー」についておたずねします

問 15 亶理町では、「令和４年度 防災都市創造に向けた社会実証研究事業」の一環として、亶理町の町民一人あたり９個ずつの「備蓄ゼリー」を各世帯に配布する取り組みを行っています。お宅では、この取り組みをご存じでしたか。（○は１つ）

- 1 よく知っていた
- 2 多少聞いたことがあった
- 3 配られるまで知らなかった

問 16 今回のゼリーのパッケージデザインは、亘理町で6～7月に行われた「笑顔になるゼリーデザインコンテスト」の応募作品から採用されたものです。お宅では、このデザインコンテストのことをご存じでしたか。（○は1つ）

- 1 よく知っていた
- 2 多少聞いたことがあった
- 3 商品やこのアンケートを見るまで知らなかった

問 17 この「備蓄ゼリー」について、どう感じになりましたか。以下の1～6の項目について、あてはまるものを1つずつお答えください。

	とても 満足	まあ 満足	ない で満足	あまり 満足	全く 満足
（記入例）	1	2	3	4	5
1. 町独自のデザインによるパッケージ	1	2	3	4	5
2. 亶理町産「もういっこ」の使用	1	2	3	4	5
3. 5年間の長期保存が可能なこと	1	2	3	4	5
4. 災害時に水を必要としないで食べられること	1	2	3	4	5
5. パッケージの形や大きさ	1	2	3	4	5
6. 総合的な満足度	1	2	3	4	5

問 18 「備蓄ゼリー」を食べてみましたか。（○は1つ）

1 食べた	2 食べていない
-------	----------

【問 18 で「1 食べた」と答えた方のみ】

問 19 「備蓄ゼリー」を食べていかがでしたか。以下の1～4の項目について、あてはまるものを1つずつお答えください。

	とても 満足	まあ 満足	ない で満足	あまり 満足	全く 満足
1. 味	1	2	3	4	5
2. 香り	1	2	3	4	5
3. 食感	1	2	3	4	5
4. 災害時の食べやすさ	1	2	3	4	5

【全ての方におうかがいします】

問 20 お宅では「備蓄ゼリー」が届いた後、どのようにしていますか。

（あてはまるもの全てに○）

- 1 他の備蓄品と一緒に貯蔵している
- 2 非常持ち出し袋などに入れている
- 3 家族それぞれに分け合った
- 4 その他（ ）
- 5 何もせず届いたままの状態にしている

問 21 お宅では、「備蓄ゼリー」の配布により、改めて災害について考えたり、話し合ったりしましたか。（○は1つ）

- | | |
|---------------------|-------|
| 1 した | 3 しない |
| 2 しなかったが、これからしようと思う | |

【問 21 で「1 した」「2 しなかったが、これからしようと思う」と答えた方のみ】

問 22 どのようなことを考えたり、話し合ったりしましたか（これからしようと思いますか）。（あてはまるもの全てに○）

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 防災についての家族の役割を決めること | 13 風呂にいつも水をいれておくこと |
| 2 家族との連絡方法や落ち合う場所を決めること | 14 消火器や水を入れたバケツの用意をすること |
| 3 地震保険に加入すること | 15 就寝場所や備蓄品の置き場所などを考えること |
| 4 ハザードマップなどで自宅や地域の危険を確認すること | 16 家具が倒れないように固定すること |
| 5 災害時の避難場所を決めること | 17 家屋の耐震化や補強をすること |
| 6 非常持ち出し品を用意すること | 18 ガラスの飛散防止をすること |
| 7 食料・飲料などを備蓄すること | 19 屋外の飛散・倒壊しやすいものの固定や補強をすること |
| 8 車のガソリンなどをこまめに給油すること | 20 避難訓練・防災訓練に参加すること |
| 9 マスク・消毒用品・体温計などを持ち出す用意をすること | 21 自主防災組織に参加すること |
| 10 常用薬・処方薬を持ち出す用意をすること | 22 近所の高齢者・要配慮者を把握すること |
| 11 寒暖の調節がしやすい衣類の用意をすること | 23 その他（ ） |
| 12 携帯ラジオ・懐中電灯などの用意をすること | |

【全ての方におうかがいします】

問 23 お宅では、備蓄や災害時の食事について、不安や課題を感じていることはありますか。
具体的にお書きください。

調査はこれで終了です。ご協力ありがとうございました。

ご記入済みの調査票は、記入もれがないかご確認の上、同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れ、**12月23日（金）までに** 郵便ポストにご投函くださいますようお願いいたします。